

2020年度前期講座

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ ここHOWSで、真実の思考を追究しよう!



お知らせ

9月5日(土) 「朝鮮人と向き合った稀有の日本人作家・小林勝——その人と思想を考える」
(講師=卞宰洙・元朝鮮大学校教授)は開催を延期いたします。

〈シリーズ〉資本と対峙する労働運動再建の道すじを求めて 第1回

日時

9月2日(水)

開始 18:45
終了 20:30

報告

吉良 寛

横浜市従業員
労働組合

資本家の5G・AI・IoT戦略と労働者

—— 階級的(階級志向の)集団的な運動強化が必要だ

この5月、コロナ禍のもとで、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフトのいわゆるGAFAMの株式時価総額は560兆円を超え、東証1部上場企業の合計を上回った。「知識」資本といった観点で資本主義が新たな段階に入ったとする論者もいる。眉に唾をつけつつ階級的観点から検討しよう。本講座では、支配階級が推し進めている5G・AI・IoT等を、1980年代のいわゆるME(マイクロエレクトロニクス)革命、90年代以降のIT革命の流れ=資本主義の搾取構造の変容のなかに位置づけ、何が変わり、何が変わらないのかを明らかにしたい。そして、政府独占の雇用戦略や雇用形態の自営業者化・請負化の進行等との関係を明らかにし、集団的労資関係の再建という今日的課題に結びつけて討論したい。

〈シリーズ〉この人にきく 第4回

日時

9月12日(土)

開始 13:00
終了 15:30

講師

國分富夫

相双の会会長

大震災・原発事故から10年

——国・東電の責任を追及しつづける闘い

自然と共存
できる社会

コロナ禍など、わたしたちの経験にないことが起きて戸惑いを感じています。近年では、狂牛病、豚コレラ、鳥インフルエンザが蔓延した時期もありました。また台風の巨大化など、これまたわたしたちが経験したことがない自然災害も起きていて、なにか不吉な予感がします。このきれいな地球にたいして、わたしたち人類がほんの2~300年のうちに汚し壊してきたことへの反発・挑戦なのか、と思う時があります。それに加えて原発です。原発はまさに造っても稼働させてもならないものです。しかし、わたしたちは後始末も出来ないこの原発を、「未来のエネルギー」として競争するかのようになり稼働させてきました。原発は核兵器に繋がり、人類をはじめ地球上の全生物そのものを絶滅させてしまいます。わたしたちには、福島原発事故被害者として、二度とあってはならない原発事故が引き起こした教訓を訴え続ける責務があります。また福島は、現在の日本国憲法草案者のひとりである鈴木安蔵の生誕地でもあり、かれの意思を守り広げていかなければならないと思っています。

〈シリーズ〉日本の短編小説を読む 第4回

日時

9月16日(水)

開始 18:30
終了 20:30

講師

立野正裕

明治大学元教員

北條民雄「いのちの初夜」

(『日本近代短編小説選昭和篇1』岩波文庫収録)

今期はとくに統一テーマを設けず、近代現代の秀作を幅広く取り上げる。とはいえ、四編個々の作品が指し示している世界は、こんにちのわれわれの現実をさらなる探求の対象とするうえで、文学の入り口となることまちがいないであろう。

日 時

9月19日(土)

開始 13:00

終了 15:30

講師

岩田昌征

(千葉大学名誉教授)

ユーゴスラヴィア内戦の真相

——マスコミが伝えられない真実に迫る

多民族戦争と階級形成闘争

社会主義崩壊から資本主義復活の過程が最もはげしく流血の悲劇に落ち込んだ旧ユーゴスラヴィア多民族戦争、20世紀最後の10年のヨーロッパにおける戦争、そして、第二次大戦後唯一のヨーロッパにおける戦争を令和の時代に考え直してみたい。諸論点がある。以下の如し。

- ①ユーゴスラヴィア王国形成期（第一次大戦後）のB i H（ボスニア・ヘルツェゴヴィナ）の農地改革と社会主義ユーゴスラヴィア（第二次大戦後）におけるその継承。社会主義崩壊、B i H独立、農地改革の見直し要求
- ②ユーゴスラヴィア共産主義者による社会主義建設試行、市場社会主義と自主管理アソシエーション（連合）労働システム
- ③社会主義建設エネルギーの過消費・涸渇と資本主義化における階級形成闘争（社会有財産の私有化闘争）を実質化する多民族戦争
- ④ユーゴスラヴィア諸民族へのマルクス・エンゲルスの偏見とユーゴスラヴィア共産主義者によるマルクスの社会主義建設試行の不調和
- ⑤西欧起源の民族形成試行の波及、多民族戦争の西北部から東南部への移動の意味
- ⑥中世以来の対抗、カトリック（プロテスタント）文明、東方正教文明、イスラム文明の交差地における多民族戦争・多宗教戦争、
- ⑦北米西欧市民社会（カトリック・プロテスタント文明）によるユーゴスラヴィア多民族戦争の選択的認識・偏向的情報を対象化できない日本市民社会

【参考文献】

- ・『ユーゴスラヴィア：衝突する歴史と抗争する文明』（NTT出版、平成6年1994年）
- ・『ユーゴスラヴィア多民族戦争の情報像 学者の冒険』（お茶の水書房、平成11年1999年）
- ・『社会主義崩壊から多民族戦争へ』（お茶の水書房、平成15年2003年）
- ・『20世紀崩壊とユーゴスラヴィア戦争 日本異論派の言立て』（お茶の水書房、平成22年2010年）

日 時

9月26日(土)

開始 13:00

終了 15:30

報告

土屋トカチ

映像グループ
ローポジション

映画『アリ地獄天国』(完全版) 上映

(2019年・98分 監督=土屋トカチ)

とある引越会社。社員は自分たちの状況を「アリ地獄」と自嘲する。長時間労働を強いられ、事故や破損を起こせば、会社への弁済で借金漬けになるからだ。本作の主人公、西村有さん(仮名)は34歳の営業職。会社の方針に異議を唱え、一人でも入れる個人加盟の労働組合(ユニオン)に加入した。するとシュレッダー係へ配転させられ、給与は半減。さらに懲戒解雇にまで追い込まれた。ユニオンの抗議により解雇は撤回させたが、復職先はシュレッダー係のまま。会社に反省の色は見られない。西村さんは、「まともな会社になってほしい」と闘いを続け、次第にたくましく変わってゆく。

おかげ様で、国内外での反響は広がっております。

【受賞歴】 ・貧困ジャーナリズム賞2019 ・第20回ニッポンコネクション(ドイツ) 第1回ニッポンオンライン賞 ・門真国際映画祭2020 ドキュメンタリー部門 優秀作品賞 ・第2回ピッツバーグ大学(アメリカ) 日本ドキュメンタリー映画賞グランプリ ★都内劇場公開も10月下旬～渋谷区・ユロススペース、11月1日～、北区・シネマ・チュプキ・タバタで公開決定しました。



会場 本郷文化フォーラムホール

〒113-0033東京都文京区本郷3の29の10飯島ビル1F

TEL=03(5804)1656 FAX=03(5804)1609

メールアドレス=hows@dream.ocn.ne.jp

★コロナ感染症拡大のため、今期前半の講座は20人定員・時間短縮・事前予約制、マスク着用で行ないます。★また急きよ中止・延期する場合がありますので、参加希望の方は必ず電話番号をお教えください。